

VII-2

造血幹細胞移植後に完全寛解を得た骨髄腫症例におけるオリゴクロ - ナル
プロテインバンドおよびクラススイッチ出現に関する解析

○平井理泉¹、寺迫桐子¹、竹之内礼子¹、若林 睦²、谷村 聡¹、竹下昌孝¹、
萩原将太郎¹、三輪哲義¹

国立国際医療センタ - 血液内科¹、細胞組織再生医学研究部²

【目的】多発性骨髄腫に対する幹細胞移植(SCT)後のオリゴクロ - ナルバンド(OC)ないしクラススイッチ(CS)の出現頻度は約 10%との報告があり、免疫再構築の指標・予後因子としての意義等が知られている。当科での OC/CS に関し検討した。【方法】2000 年 8 月～2007 年 1 月に自家末梢血幹細胞移植を施行した 76 症例(1/2 回 : 39/37 例)のうち、CR に至った 22 症例(男/女 3/19 例、年齢 47-70<平均 57>歳、観察期間 : 16-72<平均 40.8>ヶ月)を対象とした。OC/CS と各種臨床指標(移植後病勢、転帰、正常免疫の回復)との関連を検討した。【結果】約 40%で OC/CS を認めた(OC/CS+: 9 例 出現時期 SCT 後 2～27 ヶ月、OC/CS- : 13 例) OC/CS+例での治療前後 M 蛋白変化: IgG- IgG- 1 例、IgG- IgG- 3 例、BJP- IgG- 3 例、IgD- IgG- 1 例、IgA- IgG- 1 例 SCT 後の CR 達成群では、OC/CS の出現は予後と関係しなかった。【結論】MM に対する SCT 後 CR 達成群では約 40%の頻度で OC/CS の出現を認めた。SCT 後の CR 達成は予後因子とされているが、CR 群内では OC/CS の有無は予後因子ではなかった。OC/CS は液性免疫の再構築過程の一指標と考えられるが、今後 T/NK 細胞再構築過程、移植後感染症および移植後原病再発様式などとの関連についての解析が望まれる。